

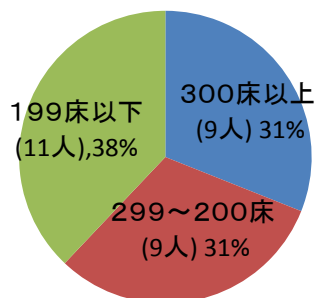
## 青森県保健師助産師看護師実習指導者講習会修了者の 活動状況および講習会の振り返り調査(看護部門の長)

### <調査対象>

- (1)平成25年度～29年度の青森県保健師助産師看護師実習指導者講習会の受講者(157名)
- (2)上記が所属する施設の看護部門の長(35施設)
- (3)養成所の実習施設で講習会の受講者がいない施設の看護部門の長(7施設)

**【看護部門の長】 配布数42、回収数29、回収率69%**

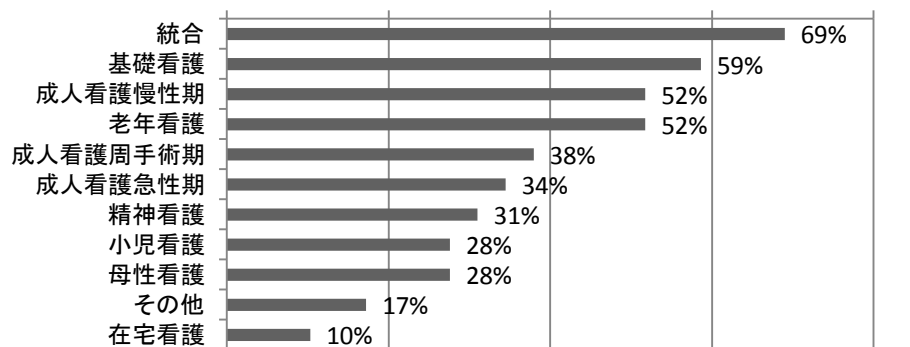
### 勤務施設規模



### 実習を受けている養成所等種別(回答施設数29)

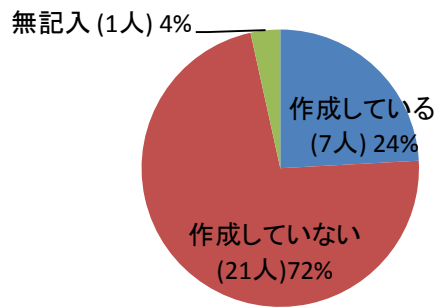
養成所等種別	受入れていると回答した施設数・割合	受入校数(延べ)
看護系大学 ※県内6校	24施設 83%	56校
進学課程(准→看コース) ※県内5校	13施設 45%	16校
准看護師2年課程(全日制) ※県内6校	10施設 34%	10校
看護師3年課程(全日制) ※県内2校	7施設 24%	8校
高等学校専攻科5年課程 ※県内2校	7施設 24%	7校
看護師2年通信課程 ※県内0校	5施設 17%	5校

### 受入実習科目(回答施設数 29)

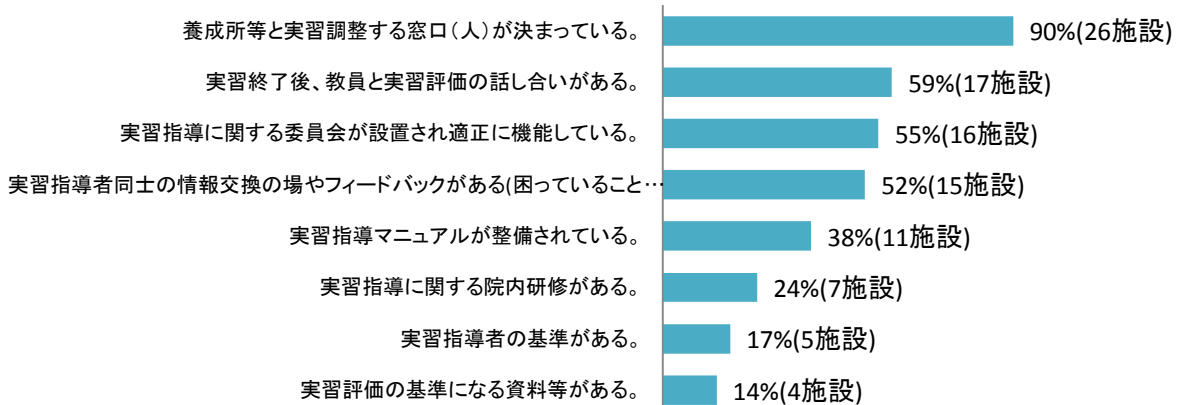


その他: マネジメント、助産学

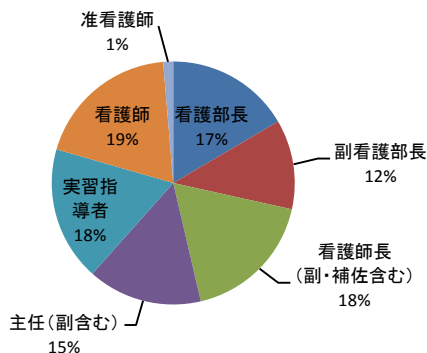
## 養成所の実習指導案を作成しているか



## 実習指導体制 (29施設、複数回答)

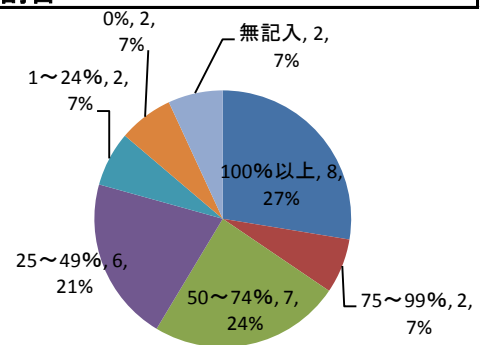


## 実習指導に関わる方の職位



## 回答した29施設の実習指導者数における講習会修了者の占める割合

100%以上	8施設
75～99%	2施設
50～74%	7施設
25～49%	6施設
1～24%	2施設
0%	2施設
無記入	2施設
計	29施設



### (主な関わり)

看護部長	教員との実習調整、教員との連携、オリエンテーション、統合実習で看護管理の講義、PBLの講義、カンファレンス参加
副看護部長	教員との実習調整、教員との連携、オリエンテーション、カンファレンス参加、直接の実習指導
看護師長(副・補佐含む)	教員との実習調整・教員との連携、カンファレンス参加、直接の実習指導、病棟内の人員配置、実習反省会等の助言、マネジメント実習プリセプター
主任(副含む)	教員との実習調整、教員との連携、カンファレンス参加、直接の実習指導、実習指導者のフォロー
実習指導者	教員との調整、教員との連携、オリエンテーション、カンファレンス参加、直接の指導、職場と学生との橋渡し、
看護師	直接の実習指導、学生のカンファレンス参加、リーダー業務などの指導
准看護師	学生カンファレンス、直接の実習指導、教員との連携

## 講習会修了者の実習指導に対する考えや行動の変化

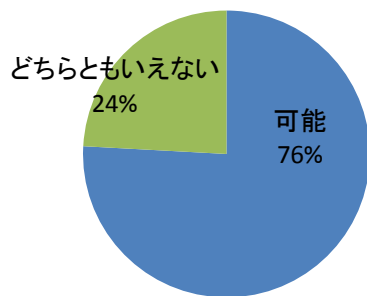
姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習指導者として、責任と自信が持てるようになったと思います。(10)</li> <li>・ 積極的に実習指導を行っている。(4)</li> <li>・ 一方的な指導ではなく、学生の考えを引き出そうとしていると思う。(4)</li> <li>・ 学生の特性を理解し、実習に役立てている。(3)</li> <li>・ 落ち着いて対応できている。(2)</li> <li>・ 学生に適切な助言ができるようになった。</li> <li>・ 学生に対し擁護的に考えられるようになった。</li> <li>・ 教えるという立場に立ち、接することができると思う。</li> <li>・ 傾聴できている。</li> </ul>
理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導の視点や役割を理解することができるようになったと思う。(2)</li> <li>・ 学校側からのシラバスへの理解ができる。(2)</li> <li>・ 実習評価の仕方が理解できている。</li> <li>・ 伝統的な指導の不備に気づいた。</li> <li>・ 指導者という意識を持ち、自身も学習するようになった。</li> <li>・ 実習の問題点を提示できる様になった。</li> <li>・ 学生指導委員会の委員として、知識を生かしている。</li> </ul>
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員・学生とのコミュニケーションができるようになった。(9)</li> <li>・ 教員と連携をとるようになった。(5)</li> <li>・ 各学校の目的、目標が達成できるように関わり、スタッフへも働き掛けている。(4)</li> <li>・ 病棟全体が協力するように働きかけるようになった。(2)</li> <li>・ 出来ていないことの指導で終わらず、少しでも良かったところを伝えている。</li> <li>・ 教員の言動や行動を良く観察しており、自分達の指導の参考にしている。</li> </ul>
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意識し、実習生を迎え入れる準備を行っている。(実習生が来ることの周知、ウエルカムボードの作成等)</li> <li>・ 職場で実習生を受け入れる雰囲気は良くなっている(良くしようと働きかけている)。</li> <li>・ 学生の学習効果を考えて、受け持ち患者を選定するようになった。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受け持ち患者への説明が上手くなった。</li> <li>・ 役割モデルに評価されるべきスタッフとなった。</li> </ul>

## 参加者が減少している要因として考えられること (29施設、複数回答)

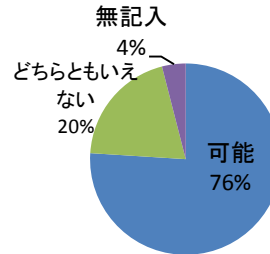
26	長期間職場を離れるため、勤務体制上参加が難しい。
19	現場が忙しいので参加させたいができない。
4	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファーストと同時期のため、勤務上参加が難しいが。</li> <li>・ 機構組織の中で実習指導者講習会がありそちらに受講させている。</li> <li>・ 希望者もない</li> <li>・ 当院では参加させる体制をとっている</li> </ul>
2	自施設に講習会修了者が数人いて、実習指導者として活動し、実習指導に関して現場から講習会参加の要望がない。
1	実習を受けている各看護単位に講習会修了者が2人以上確保され、実習指導者として活動しているので参加させる必要がない。
0	養成所の実習を受けていないので、講習会に参加させる必要はない。

## eラーニングを組み込んだ場合 講習会に参加させることが可能か

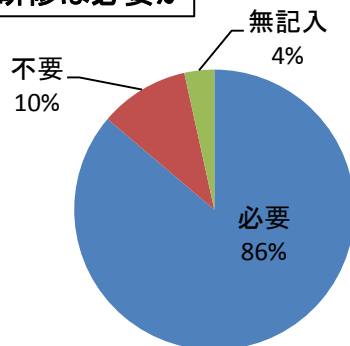
【全29施設の回答】



【左記のうち、養成所以外(看護系大学及び学校)を受け入れている25施設の回答】



## 定期的なフォローアップ研修は必要か



### 「必要」の理由

- ・実際に指導してみてもの悩みや情報交換の場があっても良いと思う。(10)
- ・新しい知識を入れていくことは必要と思う。(6)
- ・自己啓発の機会、教育的姿勢の維持。(4)
- ・復習を兼ねて学びを深める。
- ・過去に参加したスタッフ等の指導の再確認や新たな内容の構築。
- ・受講後、実習指導担当を担っているが、当院は教育担当師長もおり、相談・指導を行っているが、指導についてこれで良しとせず、向上させるためにも必要。
- ・実習学校が多いため、まずは指導者の養成を多くする。後、再教育の必要性はあると思う。

### 「不要」の理由

- ・ほぼ毎日学生が実習に来ているので、実習を通してのリフレクション、教員との意見交換などができてきているので、あまり必要性を感じない。
- ・各学校の実習協議会の中で役割を担えるのではないかとと思う。

## 養成所及び看護系大学、高等学校専攻科の実習指導の課題

### 養成所

- ・ 教員との慣れ合いに緊張感が欠けたり、「勤務して分かっているから大丈夫だろう」という思いから、学生と関わる時間が少なく、放置状態となっている。
- ・ 母性・小児看護学領域の学生数が多い(小児は少ない)
- ・ 実習が重ならないように調整に苦慮している。
- ・ 実習指導者と教員との連携がうまく取れていないと感じることがある。
- ・ 教員不在の実習がある

### 看護系大学

- ・ 学生の個別性を把握しないまま関わっている。大学生を受け入れるほどの指導力はあるのか、学生に机上や演習で得た知識とのギャップを抱えさせ、このまま受け入れて良いものかと悩む。
- ・ 母性・小児領域の実習施設はあるが、学生が多く、10人配置である。
- ・ 当院は7校の実習を受け入れており、実習が重ならないように調整に苦慮しております。それ以外には特に課題はありません。
- ・ 態度や実習にあたる姿勢(返事がない、やる気が見えないなど)
- ・ 学校側の指導教官が不在のことが多い。
- ・ 学校の実習の実施目的を明確にしてほしい。
- ・ 業務との兼ね合い、教員との連携、指導人員の確保等メリット・デメリットを考えると現状メリットが少ないように感じる。
- ・ 大学の教育カリキュラムの変更で複数の大学の実習期間が重なり、調整に困っており、受け入れが出来なくなる大学がある。

### 高等学校専攻科5年課程

- ・ 当院は7校の実習を受け入れており、実習が重ならないように調整に苦慮しております。それ以外には特に課題はありません。
- ・ 文章力がない、子供っぽさが抜けない、指導教官も経験がないため、指導に不安。

## 今後の講習会への希望・意見

- ・ eラーニングは青森までの通学の時間が短縮できるのでよいと思う。現行の分散型研修のほうが研修に出しやすい。
- ・ 実態は実習指導計画を作成することもなく、実習日は実質10日間であり、学生のレディネスも把握不十分。現状にあった講習会の内容にしてほしい。講習会参加者は勉強になるので、期間が短ければ今後も出したい。eラーニングはぜひ取り入れてほしい。
- ・ 講習会は継続してほしい。
- ・ 実習指導案に関して、各施設が独自に作成するものなのか、学校で作成するものではないのか等、意見がある。
- ・ 早期に再開していただきたい。
- ・ 当院での実習指導は主に教員が学生を指導し、看護師はケア面のサポートです。実習指導についてどうあるべきなのか、基本的なことから学べる場があると心強い。医療安全のようなeラーニングだと、数名受講できるのではないかと考える。
- ・ 講習会を修了した職員と、講習を受けていない職員とでの役割や視点のずれがあると、指導力のバラつきがある。今後講習会への参加を検討したい。
- ・ 実習で失敗したり、受け持ち患者や担当看護師とのコミュニケーションが上手く図れず落ち込んだり、自分は看護職に向いていない気がすると話す学生がいるが、そのような場合の対処に悩む(学生を受け入れる環境の調整)。
- ・ 実習指導者講習会は、継続し開催することを希望。世代交代に入り、若手看護師に役割を担ってもらいたいと思っている。
- ・ 講習会は必要だと思うが、もう少しコンパクトにして、現場から出しやすくして頂きたい。実習指導案の作成より、関連図や看護展開などをおさらいして頂けたら嬉しい。
- ・ 講習会を受けた人数はそれなりに整っているが、管理職や育休中である等、実際に現場で指導できる指導者が不足している。是非とも再開をお願いします。
- ・ 数日～1週間以内の短い期間での学生指導に関する研修があったら良いと思う。